



薄い字は損

大学の推薦入試や AO 入試の合格の知らせが塾生や卒業生から続々届いています。いろいろ悩みながらも努力を重ね、希望の進路が決まったことをともに喜びたいと思います。

さて先日、大手の模擬テスト会社の方と雑談しながらいろいろと採点の苦労話を聞く機会がありました。あまり書くと企業秘密に触れるので大まかに言うと、通信機器の進歩により採点から成績処理までの流れがかなり自動化されているようです。テストを受けてからみなさんの手元に成績票が届くまでの期間も相当短縮されました。答案そのものがスキャナーで読み取られてから採点されていることもお気づきかもしれません。しかし、採点自体はトレーニングを受けて社内資格を持っている人たちが、画面上にある各自の答えを1問ずつ目で確認しながら行っているそうです。そこで苦労するのが読みにくい字。漢字だけでなく、ひらがなや数字でも判別しづらいものは拡大して確認し、その人の書いた他の文字とも比べながら○×を判断しているそうです。中でも厄介なのは薄い字で書かれた答案。スキャナーでの読み取りの時点で機械が認識できなかったり、一部だけ読み取って結局文字として不完全なものだったりすると、誤採点の原因にもなりかねないとのこと。あってはならないこととはいえ、ごくまれにはそうなってしまうこともあるそうです。模擬テスト会社の採点者は毎日の仕事として慣れていますが、それでも起こりうるということは、これが年に2回だけの高校入試の採点をする高校の先生ならどうでしょう。字のうまい下手は別にして、少なくとも相手が読める字を書かなければ自分も損だと思ってください。

薄い字を書く理由もいくつかあるようです。鉛筆を正しく持てないのも原因と日頃から感じていますが、他の塾長からは「答えに自信を持ってないからすぐ消せるようにわざと薄く書く子がいる」という指摘も。冬期講習では小テストもやっていきます。ここで採点するのはベルゲンの先生たちなのでですから安心して、まずは相手に伝わる字を書く練習をしていきましょう！